

【担当教員】

栄 隆士

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟226室(内線9853)

【授業目的及び達成目標】

授業目的:

日本語(特論)中級2-2(2学期)クラス修了者のレベルを対象に、技術科学大学である本校での学習研究活動で不可欠である日本語テキストの主に理解力の養成に重点を置く。

達成目標:

日本語(特論)中級2-2(2学期)の授業内容を受け継ぎ発展させる。技術科学系の日本語テキストにおける基本的で頻度の高い語彙、表現、論文の構成が理解できるようになること。一般的な読者を対象にした科学・技術分野の幅広いエッセイ、メディアの記事が理解できるようになること。

【授業キーワード】

技術、科学分野における語彙、表現及びテキスト構成

【授業項目】

技術、科学に関する

- (1) 漢字熟語の意味的、統語的な分析を通じた語彙力の増強
- (2) 基本的な表現とその共起関係
- (3) テキストにおける各文間のレベルにおけるテキスト分析

【教科書】

- (1) この授業の受講生の専攻分野に関する各系の教官と相談し、専門分野のトピックに関する基本的で総括的な内容の簡潔なテキストを作成して使用
- (2) 一般向けメディアなどから選んだアップツーデートの技術、科学に関連した記事
- (3) 技術、科学の考え方に関する一般的なエッセイ

【成績の評価方法と評価項目】

出席点、授業各回で実施する小テスト、中間テスト、期末テスト、授業における積極性

【担当教員】

栄 隆士

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟226室(内線9853)

【授業目的及び達成目標】

授業目的:

日本語初級クラス修了者のレベルを対象に、技術科学大学である本校での学習研究活動に不可欠である理工系日本語テキストの基本的な理解力の養成に重点を置く。

達成目標:

技術科学系の日本語テキストにおける基本的で頻度の高い語彙、表現及びテキストの構成が理解できるようになること。一般的な読者を対象にした、科学・技術分野の幅広い内容のエッセーやメディアの記事が理解できるようになること。

【授業キーワード】

技術、科学分野における基本的な語彙、頻度の高い表現、典型的なテキスト構成

【授業項目】

技術、科学に関する

- (1) 漢字熟語の意味的、統語的な分析を通じた語彙力の増強
- (2) 基本的な表現とその共起関係
- (3) テキストにおける各文間のレベルにおけるテキスト分析

【教科書】

- (1) この授業の受講生の専攻分野に関する各系の教官と相談し、専門分野のトピックに関する基本的で総括的な内容の簡潔なテキストを作成して使用
- (2) 一般向けメディアなどから選んだアップツーデートの技術、科学に関連した記事
- (3) 技術、科学の考え方に関する一般的なエッセー

【成績の評価方法と評価項目】

出席点、授業各回で実施する小テスト、中間テスト、期末テスト、授業における積極性

【担当教員】

加納 満

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟501室

【授業目的及び達成目標】

目的:中級後半レベルの日本語の総合的な運用能力の養成を行う。

達成目標:初級及び中級前半で習った文法項目や語彙を様々な文脈で使いこなせるようになること。

【授業キーワード】

記述説明能力、口頭発表能力

【授業内容及び授業方法】

初級及び中級前半で習った文法項目を様々な文脈で使いこなせるようペアワーク、発表、議論、聴解練習などを通じて授業を進めていく。

【授業項目】

- 第5課 過去の出来事や状況の説明
- 第6課 自分の恋愛観や結婚観の意見表明
- 第7課 食と健康に関する意見表明
- 第8課 教育制度や教育問題に関する意見表明

【教科書】

“J Bridge to Intermediate Japanese”(凡人社)

【成績の評価方法と評価項目】

出席点、口頭発表点、レポートにより成績評価を行う。

【担当教員】

加納 満

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟501室

【授業目的及び達成目標】

目的: 中級前半レベルの日本語の総合的な運用能力の養成を行う。

達成目標: 初級で習った文法項目や語彙を様々な文脈で使いこなせるようになること。

【授業キーワード】

記述説明能力、口頭発表能力

【授業内容及び授業方法】

初級で習った文法項目を様々な文脈で使いこなせるようペアワーク、発表、議論、聴解練習などを通じて授業を進めていく。

【授業項目】

- 第1課 思い出
- 第2課 自国の紹介
- 第3課 日本と自国との比較
- 第4課 将来の夢や未来の予測

【教科書】

“J Bridge to Intermediate Japanese” (凡人社)

【成績の評価方法と評価項目】

出席点、口頭発表点、レポートにより成績評価を行う。

【担当教員】

永野 建二郎

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟508室

【授業目的及び達成目標】

大学の講義を聴いてノートを取ることができる日本語能力の習得をめざす。

【授業キーワード】

聞き取り、聴解、テープ、ディクテーション

【授業内容及び授業方法】

基本的な聴解のポイントの解説、聴解技術の習得訓練、そして実践的な場面を用いての練習を行う。

【授業項目】

実際の発話における縮約形、音変化(母音脱落等)、言い回し、音調などの正確な聴解力を身につける。

【教科書】

プリントを配布する。

【成績の評価方法と評価項目】

出席80%、試験・課題提出20%

【留意事項】

最初の授業に録音用カセットテープ(60分)を持参すること。
受講者の構成によっては、内容を一部変更する場合がある。

【担当教員】

永野 建二郎

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟508室

【授業目的及び達成目標】

大学の講義を聴いてノートを取ることができる日本語能力の習得をめざす。

【授業キーワード】

聞き取り、聴解、テープ、ディクテーション

【授業内容及び授業方法】

基本的な聴解のポイントの解説、聴解技術の習得訓練、そして実践的な場面を用いての練習を行う。
また、自ら取材をしたテープを元にレポートを作成し、発表する。

【授業項目】

実際の発話における縮約形、音変化(母音脱落等)、言い回し、音調などの正確な聴解力を身につける。

【教科書】

プリントを配布する。

【成績の評価方法と評価項目】

出席80%、試験・課題提出20%

【留意事項】

最初の授業に録音用カセットテープ(60分)を持参すること。
受講者の構成によっては、内容を一部変更する場合がある。

【担当教員】

加納 満

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟501室

【授業目的及び達成目標】

中級の上レベルの学習者を対象に、テレビドラマの視聴を通じて、日本語の総合的な運用能力の養成を行う。

【授業キーワード】

テレビドラマ、記述説明能力、口頭発表能力、話技能、聴技能

【授業内容及び授業方法】

- 1) ドラマを場面ごとに視聴し、その内容に関してペアまたはグループごとに話し合う。
- 2) その後、受講生全員を前にしてペアまたはグループの代表が一人で視聴した場面の説明を行う。
- 3) 説明後、その場で発表者の語彙、文法、発音に関して教官がチェックし、よりよい表現方法を説明する。もう一度視聴し直し、語句、文法、音変化に関して説明をする。
- 4) 最後に、視聴した場面のあらすじを書いて提出してもらい、添削後返却する。

【授業項目】

文型・文法、語彙、音変化、日本文化

【成績の評価方法と評価項目】

1. 出席点
2. 課題の提出点

【留意事項】

中級の上レベルの日本語能力の学習者を対象とする。

【担当教員】

加納 満

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟501室

【授業目的及び達成目標】

1学期に引き続き、日常会話レベルの内容について話す能力と聞く能力の養成を目的にテレビドラマを用いて授業を行う。

【授業キーワード】

記述説明能力、口頭発表能力、話技能、聴技能

【授業内容及び授業方法】

日本語IV-Iと同じ。

【授業項目】

日本語IV-Iと同じ。

【成績の評価方法と評価項目】

1. 出席点 2. 課題の提出点

【留意事項】

中級の上レベルの日本語能力の学習者を対象にする。

【担当教員】

松田 真希子

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟203室

【授業目的及び達成目標】

日本語能力初級修了者～中級レベルの留学生を対象とした中級日本語クラス。大学の研究活動で必要とされる日本語の中でも主に書技能の向上を目指す。

達成目標は(1)中上級への指標となる日本語能力試験2級レベルの語彙・文型の習得、(2)丁寧さを考慮したコミュニケーション能力の獲得、(3)日本語による研究計画書の作成方法の習得、である。

【授業キーワード】

作文 (composition), computer, 丁寧さ (politeness), 研究計画書作成 (writing a study plan)

【授業内容及び授業方法】

コンピュータを用いて作文指導を行う。毎回の授業で一つ作文を提出してもらい、必要に応じ、講義開始時に既習の文型・語彙の定着を確認する小テストを行う。

【授業項目】

1. 表記の方法 作文課題:「自己紹介文」
2. 文体(2回)
だ・である体、普通体・非丁寧体、作文課題:「所属学部の説明」
丁寧体、敬語、作文課題:「教官へのe-mail・恋人へのe-mail」
4. 段落構成 作文課題:「科学技術の進歩」
5. テーマを述べる、作文課題:「私の国に特有なもの」
6. 理由・経過を述べる 作文課題:「〇〇に関する謝罪文」
7. 定義をする 作文課題:「専門用語の定義」
8. 判明していることを述べる 作文課題:「長岡技術科学大学〇〇事件」
9. 引用する 作文課題:「ゴミのリサイクル」
10. 問題点、解決策を述べる 作文課題:「知的所有権について」
11. 研究計画書の作成(3回)手順を述べる、指示語を用いる

【教科書】

『留学生の日本語(2) 作文編』アカデミック・ジャパニーズ研究会編著
配布資料

【成績の評価方法と評価項目】

課題提出40%、研究計画書20%、定期テスト40%

【担当教員】

松田 真希子

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟203室

【授業目的及び達成目標】

日本語能力初級修了者～中級レベルの留学生を対象とした中級日本語クラス。中上級への指標となる日本語能力試験2級の合格対策を主に行う。

【授業キーワード】

日本語能力試験2級

【授業内容及び授業方法】

まず実力判定テストを行い、各自の実力に応じてグループ構成を行い、グループごとに課題を与える。毎回達成度を測る小テストを行う。また定期テストとして2級の模擬試験を行う。

【授業項目】

1. 実力判定テスト(1回)
2. 文字・語彙(4回)
3. 文法(8回)

【教科書】

『日本語テスト ステップアップ問題集 中級』星野恵子・辻和子・村澤慶昭著 アルク

【成績の評価方法と評価項目】

小テスト50%、定期テスト50%

【担当教員】

松田 真希子

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟203室

【授業目的及び達成目標】

中上級の日本語総合演習。上級への橋渡しとして様々な話題(具体的・抽象的、得意分野・不得意分野)について正確に意見を交換し、小論が発表できるようになるための訓練を行う。

【授業キーワード】

総合演習、議論、発表、読解、作文

【授業内容及び授業方法】

(1)資料を読む、(2)資料内の表現について学ぶ、(3)関連資料の収集・理解、(4)自分の意見をまとめる
(4)をもとに議論する、(5)議論をもとに(4)を修正し提出。

【授業項目】

1. この音が気になりますか?—「音姫」の誕生—(3回)
参考資料(「不思議な習慣」『中級から上級への日本語』)
2. 世界の不均衡はなぜ起こる(3回)
参考資料『世界がもし100人の村だったら』、ワークショップ「貿易ゲーム」
3. 男(女)に生まれてよかったこと(3回)
参考資料(「男と女」『中級から上級への日本語』)
4. 多文化共生について考える(3回)
参考資料(「日本の外国人」『中上級日本語教科書 日本への招待』、
「教えたいのは「教えないこと」朝日新聞朝刊記事2001年5月15日)
5. 企業が成功する条件
参考資料(「町工場 世界へ翔ぶ トランジスタラジオ・営業マンの闘い」『プロジェクトX』)

【教科書】

配布資料

【成績の評価方法と評価項目】

出席30%、課題提出70%

【留意事項】

日本語能力試験2級合格程度の能力のある者の受講が望ましい。

【担当教員】

永野 建二郎

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟508室

【授業目的及び達成目標】

中上級レベルの総合的な演習。上級レベルへの橋渡しとして、4技能(聴く、読む、話す、書く)を総合的に鍛える。

【授業キーワード】

総合演習、議論、発表、読解、作文

【授業内容及び授業方法】

1.新出語彙の学習 2.ニュースを聞く 3.本文の読解 4.文法項目の学習 5.短作文
6.資料の収集 7.資料に基づいて自分の意見をまとめる 8.議論 9.まとめ

【授業項目】

1. 理想のエネルギー—原子力—
2. 神の手・人の手
3. 顔をなくしたふるさと
4. カメラを持った語り部
5. ほんものの豊かさ
6. ミエと指輪と夜光虫
ほか

【教科書】

『テーマ別 上級で学ぶ日本語』(研究社)
そのほか補助プリントを使用する。

【参考書】

講義中に指定する。

【成績の評価方法と評価項目】

出席50%、試験・課題提出50%

【留意事項】

日本語能力試験2級合格程度の能力のある者の受講が望ましい。
受講者の構成によっては、内容を一部変更する場合がある。

【担当教員】

栄 隆士

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟226室(内線)

【授業目的及び達成目標】

授業目的:

日本語(特論)上級1-2(2学期)を継続、発展させ、技術科学大学である本校での学習研究活動において不可欠である日本語の総合的な能力をいっそう充実させる。

達成目標:

技術科学系の日本語のオーセンティックなテキストがいっそう正確かつ効率的に理解できるようになること。一般的な読者を対象にした科学・技術分野の幅広いエッセイ、メディアのオーセンティックな記事が十分に理解できるようになること。各学生の専門分野において、いっそう的確なディスカッションができるようになること、また、口頭発表ができるようになること。

【授業キーワード】

技術、科学分野における語彙、表現
スラッシュ・リーディング
パラグラフ・レベルでのサマリー
パラグラフ・レベルでのテキスト分析
テキスト構成
テキスト全体のサマリー
ディスカッション
プレゼンテーション

【授業項目】

技術、科学に関する
(1) テキストのスラッシュ・リーディング
(2) パラグラフ・レベルでのサマリー
(3) パラグラフ・レベルでのテキスト分析
(4) テキスト構成
(5) テキスト全体のサマリー
(6) ディスカッション
(7) プレゼンテーション

【教科書】

(1) 学生の専門分野のトピックに関するオーセンティックなレポートや論文
(2) 一般向けメディアなどから選んだオーセンティックなアップトゥデートな技術、科学に関連した記事
(3) 技術、科学の考え方に関する一般的なエッセイ

【成績の評価方法と評価項目】

出席点、授業各回で実施する小テスト、中間テスト、期末テスト、プレゼンテーション、授業における積極性

【担当教員】

栄 隆士

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟226室

【授業目的及び達成目標】

授業目的:

日本語(特論)中級1-1(1学期)、同1-2(2学期)修了者レベルを対象に、技術科学大学である本校での学習研究活動で不可欠である日本語の総合的な養成に重点を置く。

達成目標:

技術科学系の日本語のオーセンティックなテキストが理解できるようになること。一般的な読者を対象にした科学・技術分野の幅広いエッセー、メディアのオーセンティックな記事を十分に理解できるようになること。各学生の専門分野において十分なディスカッションができるようになること、また、口頭発表ができるようになること。

【授業キーワード】

技術、科学分野における語彙、表現
スラッシュ・リーディング
パラグラフ・レベルでのサマリー
パラグラフ・レベルでのテキスト分析
テキスト構成
テキスト全体のサマリー
ディスカッション
プレゼンテーション

【授業項目】

技術、科学に関する
(1) スラッシュ・リーディング
(2) パラグラフ・レベルでのサマリー
(3) パラグラフ・レベルでのテキスト分析
(4) テキスト構成
(5) テキスト全体のサマリー
(6) ディスカッション
(7) プレゼンテーション

【教科書】

(1) 学生の専門分野のトピックに関するオーセンティックなレポートや論文
(2) 一般向けメディアなどから選んだオーセンティックなアップトゥデートな技術、科学に関連した記事
(3) 技術、科学の考え方に関する一般的なエッセー

【成績の評価方法と評価項目】

出席点、授業各回で実施する小テスト、中間テスト、期末テスト、プレゼンテーション、授業における積極性

【担当教員】

加納 満

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟501室

【授業目的及び達成目標】

- 1) ディベートによる情報収集・分析・討論を通じて日本の政治・社会・経済・文化に関する話題や日本と外国に関わる様々な問題に関して理解を深める。
- 2) 同時にディベートによって、客観的分析力・論理的思考力、相手の意見を聞く能力と日本語による討論能力の養成をはかる。

【授業キーワード】

ディベート、討論能力、分析能力、情報収集、文章作成

【授業内容及び授業方法】

1. ディベートとは
2. 論題の設定
3. チーム編成
4. 資料収集
5. 分析・議論の組立
6. ディベートによる試合
7. 試合の判定
8. レポートの作成

【授業項目】

1. ディベートの目的
2. ディスカッションとの相違点
3. ディベートの構成
4. 立論・尋問・反駁の方法
5. 論題の設定方法
6. 試合方法、審査方法
7. レポート作成

【成績の評価方法と評価項目】

1. 出席点
2. 参加点
3. レポートの提出点

【留意事項】

上級レベルの学習者を対象とする。

【担当教員】

栄 隆士

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟226室(内線9853)

【授業目的及び達成目標】

授業目的:

日本人の精神に流れる価値観、考え方、美意識、人間関係や人生のとらえかたを、現代まで受け継がれている伝統文化、言語表現、地元の暮らしの中に探る。

達成目標:

華道、茶道などの伝統文化はどのように発展してきたか、また、現代の日本人にどのように受け入れられているのか。日本人の伝統的な人間関係は日常の作法や待遇表現にどのように表現されているのか。そのような観点から、日本人の精神活動の一部を理解させる。

【授業キーワード】

華道、茶道、作法、敬語、謙譲語、丁寧語、ことわざ、雪国の生活

【授業項目】

1. 華道についての講義と実技
2. 茶道についての講義と実技
3. 日本人の作法について理解
4. 敬語、謙譲語、丁寧語など日本語の待遇表現のシステムについての理解
5. 代表的なことわざの理解
6. 雪国の暮らしぶりを知る

【教科書】

授業ごとに教官がハンドアウトなどを用意する。

【成績の評価方法と評価項目】

出席点、期末テスト、授業における積極性

【担当教員】

永野 建二郎

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟508室

【授業目的及び達成目標】

日本人の文化と伝統、現代社会について学習し、日本・日本人についての理解を深める。

【授業キーワード】

文化、伝統、現代文化、議論、発表

【授業内容及び授業方法】

ビデオ(日本語による)を視聴し、日本の文化と伝統、現代社会について議論する。各自にテーマを与え、授業で発表する。課題提出あり。日本人学生の参加も歓迎する。

【授業項目】

日本の伝統芸能、冠婚葬祭、年中行事、習慣とマナー、現代社会、文学ほか。

【教科書】

ビデオ教材を使用する。

【成績の評価方法と評価項目】

出席50% 課題提出50%

【留意事項】

受講者の構成によっては、内容を一部変更する場合がある。

General Affairs of Japan 2-2

【担当教員】

松田 真希子

【教員室または連絡先】

化学経営情報1号棟203室

【授業目的及び達成目標】

「真剣20代？しゃべり場！」

外国人と日本人とがお互いの中に異なる価値観を見出すとき、それが国(出身地)による違いから生じるものなのか、個性の範囲なのかを判別するのは難しい。結論を出すのは難しいが、大切なことは自分が国による違いだと思い込んでいたことが個性の問題である「可能性」、個性の問題だと思っていたことが国による違いである「可能性」に「気づく」ことである。また異なった文化的背景を持つ人々とのディスカッションを通じて、自らの価値観を相対化することも意義がある。この授業では10代～20代の学生が一度は抱くであろう疑問について、外国人学生と日本人学生がディスカッションを行うことで、双方が異文化を理解する能力(文化リテラシー)を磨くことを目指す。

【授業キーワード】

異文化理解 文化リテラシー 日本人学生とのディスカッション

【授業内容及び授業方法】

主にNHK『真剣10代しゃべり場』の中からトピックを選択。1つのトピックを2回にかけて行う。一回目は問題提起とディスカッション。一回目終了時に各自意見をまとめて提出し、自分の意見を補完する資料の収集を行う。二回目はその意見の紹介と、個々に調べてきた資料の紹介を行い、議論を行い、意見をまとめて終了。以後はHPに開設した掲示板で自由に議論の続きを行う(HN可。履修者以外の書き込み可)。

【授業項目】

1. みんな自己主張しすぎじゃない？
2. 結婚って何のためにするの？
3. 迷惑をかけなければ何をしてもいい？
4. オンリーワンになりたいと思いませんか？
5. オタクじゃダメですか？
6. 参加者によるトピック決定

【教科書】

配布資料

【参考書】

野口 健(2002)『100万回のコンチクショー』集英社
(参考番組『真剣10代しゃべり場』(NHK教育TV, 土曜夜9:00～9:15))

【成績の評価方法と評価項目】

毎回のレポート提出

【留意事項】

日本語能力試験2級合格以上の能力のある者の受講が望ましい。またこのクラスは多様な価値観を披露しあうため、時に自分が聞きたくもない意見が飛び出す可能性がある。そのため異なった価値観を肯定的に受け入れることのできる学生の出席が望ましい。教室への日本人学生の参加(不定期可、教官可)を歓迎する。